

埼臨技だより



発行所 公益社団法人 埼玉県臨床検査技師会 〒330-0072 さいたま市浦和区領家7-14-7
TEL 048 (824) 4077 FAX 048 (824) 4095 URL:<http://www.sairingi.com/>
携帯URL:<http://www.sairingi.com/keitai/index.html> Twitter : @sairingi

就任二期目のご挨拶



公益社団法人 埼玉県臨床検査技師会
会長 津田 聡一郎

過日6月3日の当会定時会員総会におきましては、昨年度の事業・会計・その他についてご報告し、会員の皆様の承認をいただきました。誠にありがとうございました。社団法人から公益社団法人に移行して二年一期目を無事に終えることができ、安堵すると共に、ご協力をいただいた皆様に心から御礼申し上げます。

今総会では平成28、29年度の理事の選任があり、22名が選出されました。その後、直ちに行われた理事会で私・津田聡一郎が代表理事(会長)に決まり、引き続いて当会を率いることとなりました。どうぞ、よろしく願いいたします。

社団法人から公益法人への移行期には22名の理事で対応していましたが、平成26、27年度の理事は20名としました。しかし、ここ数年、当会の会員数増加が著しく、これに呼応させるものとして、今期から22名体制で行くこととしました。

具体的には、野瀬和彦氏(深谷赤十字病院)が業務・職場の都合で退任し、新たに阿部健一郎氏(深谷赤十字病院)、石井直美氏(越谷市立病院)、濱田昇一氏(メディカルトピア草加病院)の三氏が新たに就任し、それ以外の理事は重任(再任)しました。

ところで、私は今度の任期途中で職場の定年を迎えます。そのようなこともあって、公益移行後の混乱するかもしれない一期二年だけを無事に治めることだけを考えてまいりました。これが達成された今後は、少し引いた立ち位置で技師会・理事会に対して、「異論、反論」を吹き掛けようと思論んでおります。これは、「混乱」を目的とするものではなく、いろいろな可能性や新たな方向性を生み出すキッカケとなることを願っての考えです。

これからの数年~10年で検査業界も、医療の世界も大きく変わろうとしています。「その時」は突然来るのではなく、予兆や兆候を伴います。これを察知して、これに対応できる「検査技師」であって欲しい、「検査技師会」になって欲しい、と願いながら会務に臨みたいと思っております。

これからもどうかご指導ご鞭撻をよろしくお願いいたします。

平成28年度定時会員総会 開催される

平成28年度定時会員総会が平成28年6月3日(金)大宮ソニックシティ906号室にて開催された。本総会の審議内容は、平成27年度事業報告、収支決算報告、監査報告、名誉会員の選任、第54回日臨技関甲信・首都圏支部医学検査学会学会長選出、および平成28・29年度理事の選任についてであった。

総会は小山博史事務局次長の進行で、津田聡一郎会長の挨拶で始まり、つづいて砂川進名誉会員の紹介があった。

次に各賞表彰式が行われた。平成27年度埼臨技功労賞表彰は岩田敏弘氏(埼玉県立がんセンター)に授与された。そして「埼臨技会誌」優秀論文賞が鳥山満編集委員長より発表があり、西岡純子氏(日本赤十字社血液事業本部)の論文「埼玉県赤十字血液センターにおける依頼検査の現状について」が受賞された。つづいて永年勤続表彰は45名の会員が受賞され、当日参加された4人が表彰された。受賞された方々に謹んでお祝いを申し上げたい。

総会は議案審議に先立って関谷晃一氏(埼玉県済生会川口総合病院)が議長に選出され、関谷議長により総会役員が指名された。資格審査委員は理事より猪浦一人氏、東部地区から小関紀之氏(獨協医科大学越谷病院)、南部地区から柿沼智史氏(川口市立医療センター)、西部地区から小林亜子氏(東松山医師会病院)、北部地区から持田和紀氏(深谷赤十字病院)が任命され、委員長を猪浦氏が務めることになった。また、書記は川音勝江氏(JCHO埼玉メディカルセンター)と今上絵里氏(さいたま市立病院)が、議事録署名人には長谷川隆氏(浦和医師会メディカルセンター)と関口久男氏(埼玉県済生会栗橋病院)がそれぞれ任命された。その後、関谷議長は「18時30分現在の出席者数99名、委任状出席者数1698名、議決権行使書数161名で、合計1958名であり、本通常総会を構成する会員数は4月30日現在の会員数は2611名、現在の出席者数は総会審議のための必要出席者数である1/2を超えており、『定款』第18条の規定により本総会は成立している。」と宣言された。

議事審議は、最初に猪浦資格審査委員長より、議事日程が提案された。それに沿い関谷議長の進行により審議が始まり、第一号議案の平成27年度事業報告について津田会長、神山清志副会長、島村益広副会長、岡田茂治副会長から、第二号議案の収支決算について松岡優会計部長から、監査については遠藤敏彦監事より報告があった。質疑などはなく満場一致で可決された。第三号議案の名誉会員の選出は津田会長から原繁一氏を選出すると報告があり、異議なく承認された。第四号議案の第54回日臨技関甲信・首都圏支部医学検査学会学会長選出は、神山副会長より「津田聡一郎氏(株式会社アムル上尾中央臨床検査研究所)を推薦したい。」との提案があり、異議なく承認され津田氏より挨拶があった。第五号議案の「平成28・29年度理事選任」は、柴崎光衛役員推薦委員長(獨協医科大学越谷病院)より報告があり、阿部健一郎氏(深谷赤十字病院)、石井直美氏(越谷市立病院)、濱田昇一氏(メディカルトピア草加病院)、3名の新任理事が加わった22名の理事が承認され、すべての議案が可決された。

総会終了後、今回の総会をもって退任する野瀬和彦理事(深谷赤十字病院)進行役の下、平成28・29年度研究班員の紹介、引き続き第45回埼玉県医学検査学会学会長の並木薫氏より学会からのお知らせがあり、最後に野瀬理事より挨拶があった。野瀬理事は精度保証部部長として活躍された。一見固そうに見えるが、とても気さくな方で、楽しい飲ミニケーションを過ごしたことを思い出します。野瀬理事お疲れ様でした。



津田会長



関谷晃一議長



埼臨技功労賞 岩田敏弘氏



優秀論文賞 西岡純子氏



永年勤続表彰の皆様

この間、別室で選任された理事により会長選定のための理事会が開催され、津田会長の続投が決まった。

本総会が円滑に開催できたのは、関谷議長の円滑な進行と総会役員、出席者の協力および多くの会員の皆様からの委任状・議決権行使提出によるものであり、この場をお借りいたし厚く御礼を申し上げます。

(文責：猪浦一人)



◆平成28・29年度 新任理事自己紹介



深谷赤十字病院
阿部 健一郎

この度、埼玉県臨床検査技師会理事を拝命いたしました阿部健一郎と申します。会員の皆様のお役にたてるよう当会の業務に早く慣れるとともに、会の運営を通じて私自身も色々なことをたくさん勉強させていただきたいと思っております。微力ながら埼玉県臨床検査技師会に貢献出来るように頑張る所存ですので、ご指導ご鞭撻の程よろしくお願ひ申し上げます。



メディカルトピア草加病院
濱田 昇一

この度平成28・29年度、埼玉県臨床検査技師会理事として事業部を務めさせていただくこととなりました、メディカルトピア草加病院の濱田昇一と申します。何もわからない新人理事でございます。不安と希望でいっぱいですが、このような機会をいただいたことに感謝し諸先輩方の指導を受けながら一つずつ微力ではございますが、会員の皆様方のため精一杯努めさせていただきます。何卒ご指導ご鞭撻の程宜しくお願ひ申し上げます。



越谷市立病院
石井 直美

この度、埼玉県臨床検査技師会理事を拝命いたしました、越谷市立病院の石井直美と申します。重責を感じておりますが、私が入職した頃に、すでにご活躍されていた先輩方と、今回、理事という場で一緒にお仕事できますことを嬉しくも感じております。会員の皆様のため、少しでもお役に立てるよう頑張っていきたいと思っておりますので、ご指導ご鞭撻の程よろしくお願ひ申し上げます。

公益社団法人 埼玉県臨床検査技師会 平成28・29年度 役員名簿

役 務 担 当	氏 名	施 設 名
会 長	津田 聡一郎	株式会社アムル 上尾中央臨床検査研究所
副会長	神山 清志	一般社団法人 浦和医師会メディカルセンター
副会長	島村 益広	日本赤十字社 関東甲信越ブロック血液センター埼玉製造所
副会長	岡田 茂治	埼玉県立がんセンター
事務局長(常務理事)	矢作 強志	川口市立医療センター
事務局次長(常務理事)	小山 博史	独立行政法人地域医療機能推進機構 埼玉メディカルセンター
総務部長(常務理事)	奈良 豊	埼玉医科大学総合医療センター
総務部	猪浦 一人	埼玉県済生会栗橋病院
総務部	長岡 勇吾	さいたま赤十字病院
総務部	石井 直美	越谷市立病院
事業部長(常務理事)	濱本 隆明	防衛医科大学校病院
事業副	藤井 豊善	蕨市立病院
事業部	長澤 英一郎	さいたま市立病院
事業部	神嶋 敏子	埼玉県立小児医療センター
事業部	伊藤 恵子	東武医学技術専門学校
事業部	濱田 昇一	上尾中央医科グループ メディカルトピア草加病院
会計部長(常務理事)	松岡 優	埼玉医科大学病院
会計部	小島 徳子	上尾中央医科グループ 白岡中央総合病院
学術部長(常務理事)	山口 純也	埼玉県済生会川口総合病院
学術部	鳥山 満	獨協医科大学越谷病院
学術部	武関 雄二	自治医科大学附属さいたま医療センター
学術部	阿部 健一郎	深谷赤十字病院
精度保証部長(学術部長と兼務)	山口 純也	埼玉県済生会川口総合病院
監 事	遠藤 敏彦	川口市立医療センター
監 事	細谷 博光	細谷会計事務所
主任事務員	山下 康衣	
事務員	後藤 康子	



*** 平成28年 春の叙勲の榮譽に浴して ***

元埼玉県臨床検査技師会 副会長
野 本 幸 雄



このたびは思いがけなく瑞宝双光章を受章し、身に余る大変光栄な事と思っております。叙勲の推薦をして頂いた公益社団法人埼玉県臨床検査技師会の皆様に感謝申し上げます。

4月29日の新聞紙上での発表後、5月6日には知事公館での伝達式で上田知事より勲記・勲章を受け取りました。5月18日には妻と共に厚生労働省の講堂で厚生労働副大臣の祝辞を受け、バスで皇居に移動後、豊明殿で天皇陛下に拝謁いたしました。テレビで見るとおりの優しい陛下で一生忘れることのできない良い思い出になりました。

提出資料の功績調書等を作成する過程では、今までにこんな事をしてきたのかと自分が歩んできた足跡の一端が蘇りました。埼玉県職員としてがんセンター、循環器病センター準備室、循環器病・呼吸器病センター、精神保健総合センター、総合リハビリテーションセンターといくつかの病院や準備室を経験し、広い視野で検査を見ることが出来ました。又、埼玉県臨床衛生検査技師会では研究班員、研究班長、学術部長、庶務部長、副会長など様々な役職を行うと共に諸先輩の方々や同僚から多くの事を学ばせて頂きました。

今年度は地元の自治会長を行っています。役員会の資料作り、会議の進め方、予算など今まで検査技師会で経験したことがそのまま役に立っています。生きていく上での知恵を教えてくださいました。検査技師会だと思っておりますし、大変感謝いたしております。

今回の受章を励みに今後とも検査技師会の名を汚さぬよう精進してまいります。公益社団法人埼玉県臨床検査技師会の益々のご発展を祈念いたします。

元埼玉県臨床検査技師会 事務局長
前 原 光 江



この度、埼玉県臨床検査技師会の推薦で、平成28年春の叙勲にて、瑞宝双光章を受章いたしました。去る5月6日、埼玉県知事公館にて行われた伝達式にて、上田知事より勲章・勲記をいただきました。そして、5月18日には、厚生労働省にて厚生労働大臣から祝辞を頂戴し、その後、皇居豊明殿にて天皇陛下に拝謁いたしました。心地よい緊張感で身のひきしまる思いでした。これもひとえに技師会の皆様の御支援の賜物と心から感謝申し上げます。技師会員になって40年以上が経過しましたが、臨床検査技師として、この会とともに歩んできたことに誠に嬉しく思います。今後も微力ながら一会員として活動をつづけていきたいと思っています。埼玉県技師会は会員数が2500名を超え、公益法人として果たす役割はますます大きくなっています。技師会がさらに発展することを祈念し御礼のご挨拶とさせていただきます。

(仮称) 平成 28年熊本・大分地震災害における支援活動の御礼

公益社団法人埼玉県臨床検査技師会では、日臨技からの「会告 文書」を受け、4月25日より埼臨技が関わる研修会・学術集会・その他の会合等にて募金活動を行ってまいりました。また、自発的に施設内で募金活動を実施していただく等、埼臨技会員皆様のお気持ちを募集させていただきました。

皆様からお預かりした募金額79,148円は日臨技を通し被災地への送金手続きが完了いたしましたことを報告させていただきます。

会員の皆様、ご協力有難うございました。



各研究班の研修会報告を致します。

テーマ もう一度確認しよう！

主催 微生物検査研究班

実施日時：平成28年 4月22日 19時00分～20時30分

会 場：大宮ソニックシティ 604号室 点数：専門教科－20点

講 演 1：2016年CLSIドキュメントの主な変更点

講 師：池延 貴史（ベックマン・コールター株式会社）

講 演 2：平成27年度埼玉県・埼玉県医師会 臨床検査精度管理事業報告と解説

講 師 1：永野 栄子（獨協医科大学越谷病院）

講 師 2：前田 知子（越谷市立病院）

講 師 3：川又 大右（株式会社 戸田中央臨床検査研究所）

講 師 4：荻野 毅史（埼玉県済生会川口総合病院）

参加人数：会員48名 賛助会員7名 非会員1名（申請中1名）

出席した研究班班員：渡辺典之 永野栄子 酒井利育 砂押克彦 牧俊一 小西光政 森圭介
毛利光希 小棚雅寛

研修内容・感想など

本年度の最初の研修会で、「もう一度確認しよう！」の主題のもとに、「2016年CLSIドキュメントの主な変更点」と「平成27年度埼玉県医師会臨床検査精度管理事業報告と解説」の2つのテーマについて各講師に講演していただいた。

まず、毎年更新されているCLSIドキュメントの主な変更点では、単純性膀胱炎における腸内細菌科のCEZ（非経口薬）のブレイクポイントが追加されたことと、新たに追加された *Staphylococcus pseudintermedius* についての説明とブレイクポイント追加の報告があった。

Staphylococcus pseudintermedius は、犬や猫の鼻腔に定着している菌であり、日常検出されることは少ないが、通常CNSとブレイクポイントが異なるので正確に同定する必要がある。

その他として、近年注目されているCREの検査法としてCalba-NP法以外にCarbapenem Inactivation Method (CIM)の説明があった。現在ドキュメント未記載だが、新たな検査法として有用であり、今後ドキュメントへの記載が期待される。

精度管理報告と解説では、フォトサーベイ（バーチャルスライド含む）、同定、薬剤感受性、グラム染色の結果と評価方法について説明していただいた。バーチャルスライドは、実際の顕微鏡と見え方が異なると指摘があった。より実際の画像に近づけることが望ましいが、現段階では対応が難しいと感じた。同定ではTCBS寒天培地の検討の説明で、菌の発育が認められないメーカーがあったと報告があった。今後、検体配布前には細やかな検討が必要という課題が示された。感受性では、不等号の記載ミスで評価を落とす施設があり、表記方法の基本について説明していただいた。グラム染色では染色像の詳しい解説があった。

CLSIは毎年更新されているため、新しい知識を得て日々の検査に役立てることが重要と感じた。（文責：渡辺典之）

テーマ 免疫組織化学染色の基本を身に着けよう！

主催 病理検査研究班

実施日時：平成28年 4月22日 19時00分～21時00分

会 場：浦和コミュニティーセンター 第13集会室 点数：専門教科－20点

講 演 1：スライドガラスの基礎知識

講 師：新道 弘規（松浪硝子工業株式会社）

講 演 2：免疫組織化学染色の基本① ～目的・原理を中心に～

講 師：細沼 佑介（埼玉医科大学国際医療センター 病理診断部）

講 演 3：免疫組織化学染色の基本② ～精度管理・トラブルシューティング・活用方法を中心に～

講 師：岡村 卓哉（獨協医科大学越谷病院 病理診断科）

司 会：三鍋 慎也（防衛医科大学校病院 検査部病理）

参加人数：会員67名 賛助会員7名

出席した研究班班員：岡村卓哉 三鍋慎也 渡邊俊宏 高橋俊介 今村尚貴 荻真里子
細沼佑介 関口久男 森田繁 金泉恵美子

研修内容・感想など

昨今、病理診断やコンパニオン診断薬の選択に免疫組織化学染色は必要不可欠となっている。

しかしながら、近年では自動染色装置の普及で、基本に立ち返る機会は少なくなっていると考えられる。今回の研修会では、免疫組織化学染色の基本を中心に剥離防止コートスライドガラスの歴史から構造、染色目的や原理から精度管理・トラブルシューティングまで3人の講師に講演していただいた。免疫組織化学染色は様々な要因が染色性に影響を及ぼすことがある。本研修会で学んだことを業務に活かしていただき適正な診断へと繋がる標本作製を行っていただきたい。
(文責：金泉恵美子)

テーマ 生理機能初心者向け教育研修 その1

主催 生理検査研究班

実施日時：平成28年 4月23日 14時00分～17時10分

会 場：自治医科大学附属さいたま医療センター 講堂 点数：専門教科-20点

講 演 1：心電図の基礎知識 正しい記録と判読のために

講 師：早川 勇樹（自治医科大学附属さいたま医療センター）

講 演 2：フォームで“形”をみよう！フォームABIの基礎知識

講 師：阿藤 大（オムロンコーリン株式会社）

参加人数：会員100名 賛助会員1名

出席した研究班班員：早川勇樹 野本隆之 仲野浩 瀧澤義教 家城正和 関口知詠子
田名見里恵 櫻井友加里

研修内容・感想など

新たに生理検査業務に関わる検査技師の皆様に、確かな知識を身に付けていただくことを目的に、毎年この時期に2カ月にまたいで企画している研修である。今年も非常に多くの参加者を得て盛況に実施することができた。

「心電図の基礎知識 正しい記録と判読のために」では早川技師より、心電図の基礎から不整脈の読み方、その成り立ちまで丁寧に説明された。次の阿藤氏による「フォームで“形”をみよう！フォームABIの基礎知識」では、久々のABI・PWVの座学であった。ABI・PWVの基礎知識に始まり、これまでに蓄積された数々の有意義な論文の紹介、検査時の注意事項、そして特筆に値するのが症例判読であった。その中でエンベロープと脈振幅レベルの意味を知ること、数字だけを追いがちなこの検査において、精度の妥当性を評価することの重要性を説いていただいた。内容的には初級者にはハードルが高く感じたようだが、本日の内容をしっかり修得できれば、今後の生理検査業務の質が格段に上がると思われる有意義な研修であった。

2講義とも90分枠と例年より長めの設定であったが、それでも時間が短く感じるような充実した研修会だったと感じた。
(文責：野本隆之)

テーマ 平成27年度精度管理報告と膵臓のマーカーについて

主催 血清検査研究班

実施日時：平成28年 4月26日 19時00分～20時30分

会 場：大宮ソニックシティ 905号室 点数：基礎教科-20点

講 演 1：平成27年度 埼玉県・埼玉県医師会臨床検査精度管理事業報告(血清)

講 師：藤代 政浩（獨協医科大学越谷病院）

講 演 2：膵臓のマーカーについて 膵疾患の診断と経過観察に有用であるエラスターゼ1を中心に（免疫学的検査を視野に入れて）

講 師：太田 亨（株式会社LSIメディエンス）

参加人数：会員30名 賛助会員2名

出席した研究班班員：大島まり子 鈴木淳子 鯨井智子 多川裕介 岩崎篤史 庄司和春

研修内容・感想など

まず、藤代技師に平成27年度埼玉県医師会精度管理事業報告(血清部門)を行なっていただいた。参加申込施設数は昨年と同じ111施設で、試料はNo21～No24の4種類を用いてRF、ASO、免疫グロブリン、AFP、CEA、PSA、TSH、梅毒脂質抗体、TP抗体、HBs抗原、HCV抗体について実施され、RF、ASOなど一部を除き、10項目について評価を行った。評価方法も例年同様、各メーカーに試料を送付し測定していただいた値を目標値とし、目標値からの隔たり(%)によりA～Dを算出して実施した。各項目について測定方法や機器の推移、評価の結果、問題のあった項目等についての説明があった。まず、RFはツインプロットにおいて、右上がり対角線上付近にあるが、測定値の隔たりは大きいとのことであった。ASOはプロットが2群に分かれているように見えるが、キャリブレーションの濃度が1点か多点かの群に分かれたのではないかと推測される。免疫グロブリンは、例年IgGが最も良好なCVであり、次いでIgA、IgMの順となる

が、今回も概ね同様の傾向であった。ただし、IgMにおいて1施設が2濃度とも大きく外れて系統誤差によりD評価となった例があった。次に腫瘍マーカーであるが、AFPは数年前にメーカー1社が標準物質を改善しており良化している。CEAは標準物質の問題改善に課題がありツインプロットにおいて3群に分かれていたが、患者検体ではそれほど差は出ない印象である。PSAは、標準化が進んでいるが、それでもよく見ると2群に分かれていた。TSHは参加施設が年々増加し63施設となった。試料中の防腐剤の影響を受けて低値となっている機種があるが、患者検体では問題ないと思われる。梅毒脂質抗体は、参加施設は用手法19、自動化法29の48施設であるが、2施設がD評価であった。TP抗体はメーカーによって単位が異なるため測定値は異なるが、メーカーの目標値で評価すると全施設A評価であり良好であった。HBs抗原では、定性において試料は弱陽性であったが、クイックチェイサー使用6施設のうち3施設が陰性と回答したため評価対象外となった。精密は1施設D評価があった。HCV抗体は、陽性を陰性としD評価となった施設があった。全体の印象としては、概ね良好な結果であったが、今年も記入ミスが散見された。

次に、太田氏に膵臓のマーカーについてエラスターゼ1を中心に説明していただいた。まずは膵臓癌についての説明があり、早期発見が困難で予後不良な疾患ではあるが、早期に発見できれば決して助からない訳ではない。膵癌は家族歴や膵炎があると危険性が高いので日ごろから注意する必要がある。また、喫煙は膵癌においても危険率が増すとのことである。禁煙するに越したことは無い。初発症状としては腹痛、背部痛、黄疸で60%ほど占めており、このような症状があったら膵癌を疑ってみるべきであるが、無症状も15%あるので厄介である。エラスターゼはセリンプロテアーゼ系蛋白分解酵素で膵臓に多く存在するが、白血球、脾臓、大動脈にも存在している。エラスターゼ1は他の膵酵素と比べ血中半減期が長い比較的中長期間高値を示す。また、代謝経路は肝臓であるため、腎臓から排泄される他の酵素と異なり腎不全で高値になることが少ない。小膵癌などにより膵管や膵管分岐が閉塞された場合鋭敏に上昇するなどの特徴がある。膵癌症例において、膵癌の代表的な腫瘍マーカーであるCA19-9と異常率を比較検討したところ、切除可能例と非切除例においては、非切除例ではCA19-9の方の異常率が高かったが、切除可能例ではむしろエラスターゼ1の方が高かった。また、部位別による検討では、体尾部癌ではCA19-9の方が高いが、頭部癌ではエラスターゼ1の方が高かった。ただし、CA19-9はルイス陰性患者では上昇しないという欠点がある。これらの事から、エラスターゼ1は、膵癌の診断、経過観察に有用であり、CA19-9と組み合わせることで互いの弱点を補いあうことができると考えられる。(文責：庄司和春)

テーマ 臨床化学検査 初心者のための研修会 No.1 採血現場における接遇の考え方と採血管の取り扱い注意点

主催 臨床化学検査・公衆衛生検査・血清検査・血液検査研究合同班

実施日時：平成28年4月27日 19時00分～20時30分

会場：大宮ソニックシティ 906号室 点数：基礎教科－20点

講師：安倍 夏生（極東製薬工業株式会社 営業学術部）

参加人数：会員107名 賛助会員5名

出席した研究班班員：

臨床化学検査研究班：巖崎達矢 永井謙一 三木隆治 大谷真澄 安田達明 大出淳
栗原将希

公衆衛生検査研究班：菊地孝司 穴原賢治 富井貴之 阿保一茂 榊原外江 鈴木勤 立塚梓

血清検査研究班：鯨井智子 多川裕介 天野直樹

血液検査研究班：原誠則 軍司雅代 手塚祐太

研修内容・感想など

今回の研修会は、臨床化学・公衆衛生・血清・血液検査研究班4つの研究班合同で開催し、採血現場を中心とした医療機関における接遇の考え方と採血管の取り扱い注意点についてご講演いただいた。

はじめに、接遇は患者様を思いやって行動することを基本とし安心して治療を受けられる体制を整え、信頼関係を構築するために重要であり患者様に不満や不信感がある状態では、些細なことでも大きなクレームに発展しやすいため接遇によりこれらを未然に防ぎ、病院のメリットになり得ると話された。

接遇のポイントとして、①患者様がどんな人かを把握するためによく観察し、アイコンタクトを十分にとること、②相手の話に耳を傾けてそれを態度で示すこと、③イラストやフローチャートを活用し、分かり易いように伝えること、④話し方や身だしなみなど常に誰かに聞かれている、見られているのを意識することの4点を挙げられた。

印象に与える要因として視覚と聴覚による情報が9割以上を占めているとされており、先に述べた4点について留意することが接遇の向上に繋がると話された。また、採血現場における接遇として、採血の待ち時間が長い場合にはおおよその時間をご案内し、内出血してしまった場合には原因と予想される経過について説明し、痛みが強い場合には医師の診察を提案する等、患者様の立場に立って接遇を考えるのも必要であると感じた。

続いて、採血管の取り扱い注意について説明があった。遠心分離の際、血清分離剤がうまく反転しない場合があるが、原因としてタンパク濃度が高い検体や血液の凝固が不十分であることが考えられ、再遠心や冷蔵保存による検査値への影響、分離剤の薬物血中濃度への影響などについても注意する必要があるとの解説があった。その他にも採血量不足による影響や採血管の保管などについて詳細に説明していただいた。

今回は、初心者のための研修会と題目にもあったが、経験者にとっても接遇と採血管の取り扱いについて再確認できる有意義な研修会であった。
(文責：大出淳)

テーマ 日当直者のための輸血検査

主催 輸血検査研究班

実施日時：平成28年 5月13日 19時00分～20時30分

会場：大宮ソニックシティ 602号室 点数：専門教科－20点

講演 1：平成27年度埼玉県・埼玉県医師会 臨床検査精度管理事業報告

講師：宮川 勇 (小川赤十字病院)

講演 2：日当直者のための輸血検査の基本

講師：渡邊 一儀 (獨協医科大学越谷病院)

参加人数：会員51名 賛助会員 3名

出席した研究班班員：渡邊一儀 神戸考裕 長谷川卓也 佐藤祥子 久保居由紀子 野呂光恵
小林真弓 山田攻

研修内容・感想など

今年度最初の研修会であり、精度管理の報告会と新人対象の日当直の輸血検査の2演題であった。宮川氏の講演は医師会精度管理の報告データを詳細に解析したもので埼玉県において輸血検査を行う施設の現状が俯瞰できる興味深い報告である。医師会の精度管理はシンプルな解答を確実に判定させる内容であり、血液型ウラ検査を行わない1施設がD評価となったのは残念であった。また赤血球ガイドラインの改訂にあわせて今後この精度管理もRhコントロールの使用やクームス法増強剤の種類等を規定する必要があると痛感した。

2演題目の渡邊技師の講演は、日当直者の輸血業務について基礎的な内容をわかりやすくまとめた講演であった。検査の基礎的な内容から始まり、それだけに留まらない、異常反応に遭遇した際の考え方や対応等、事例を紹介しながら詳細な解説が施された。特に新人でなくても対応が難しい緊急時の血液製剤選択や、在庫量不足の状況で大量に追加オーダーがでた場合等、具体的なケースをだしての対策の是非が興味深かった。会場では内容を巡ってフロアからも活発な意見が飛び交い、熱のこもった討論がいつまでも続いた。
(文責：山田攻)

テーマ 外部精度管理はその後が肝心

主催 一般検査研究班

実施日時：平成28年 5月20日 19時00分～21時00分

会場：浦和コミュニティーセンター 15集会室 点数：専門教科－20点

講演 1：平成27年度埼玉県・埼玉県医師会臨床検査精度管理事業報告

講師：深田 茂則 (埼玉医科大学病院)

講演 2：尿中赤血球形態報告の重要性と鑑別のポイント！

講師：小関 則之 (獨協医科大学越谷病院)

講演 3：ルーチンに活かせる円柱の鏡検ポイント

講師：室谷 明子 (埼玉医科大学国際医療センター)

参加人数：会員61名 申請中 7名 賛助会員 2名

出席した研究班班員：小関紀之 深田茂則 室谷明子 川音勝江 槇島碧 柿沼智史
波木井裕之 山浦久

研修内容・感想など

精度管理委員の深田氏より、昨年度の埼玉県・埼玉県医師会臨床検査精度管理事業の報告があった。フォトサーベイの分野においては、ここ数年赤血球形態の問題と、円柱の混合型の問題を継続して出題しているが正解率が芳しくない状態が続いている。それを受けて今回は、小

関氏より赤血球形態の鑑別ポイントの解説を講演いただいた。糸球体型、非糸球体型の各赤血球や、赤血球と誤認しやすい成分まで多くの写真を提示していただいた。室谷氏からは、円柱の鑑別ポイントの講演があり、混合型や顆粒円柱の判定ポイントなど、こちらも多くの写真と共に解説頂いた。沈渣の鑑別においては、実際に各成分を見ることがとても重要であり、今回の研修会で目にした成分の鑑別について日常業務の中で役立てていただきたいと思います。

(文責：山浦久)

テーマ リウマチ関連項目について学びましょう ～リウマチ関連検査の実施方法と解釈について～

主催 血清検査研究班

実施日時：平成28年 5月26日 19時00分～21時00分

会 場：大宮ソニックシティ 905号室 点数：専門教科－20点

講 師：阿部 雅仁（栄研化学株式会社 マーケティング推進室）

参加人数：会員31名 賛助会員 1名

出席した研究班班員：鈴木淳子 岩崎篤史 鯨井智子 多川祐介 天野直樹 大島まり子

研修内容・感想など

「関節リウマチ」は、以前「慢性関節リウマチ」の名称であったが、2002年に「関節リウマチ」と名称変更された。関節リウマチ (RA)は、自己免疫により関節に炎症が起こり、軟骨や骨が破壊される自己免疫性疾患(膠原病)の一種で、有病率0.5%、患者数70万人で自己免疫疾患の中では患者数が最多である。また、原因不明であり1：4で女性に好発する疾患で、主に手足の関節が侵される。炎症が慢性に続くため、発熱等の全身症状を生じ、肺(間質性肺炎)、眼(シュエグレン症候群等)などの合併症を引き起こすこともある。上記のような疾患である「関節リウマチ」の主にリウマチ関連項目について受講した。

* 近年のRAの診断・治療の考え方について、

- ①、かつてRAはゆっくり進行し、発症から10年以上経過してから関節破壊が生じると考えられていたが、関節破壊の進行は発症後早期から急速に起こることが判明したので、早期発見・早期治療が重要になった。
- ②、RA診断のために、RA類似の他疾患を除外する「RA新分類基準スコア表」が有用であり、このスコア表はリウマトイド因子 (RF)・抗CCP抗体 (ACPA)・C反応性蛋白 (CRP)・赤血球沈降速度 (ESR)の値がスコアを大きく左右し臨床検査の重要性が向上した。
- ③、サイトカインの過剰な働きを抑制する生物学的製剤の登場により関節破壊の進行を抑制し、日常生活動作が改善された。(TNF阻害薬：5製剤、Tcell活性抑制薬：1薬剤、IL-6受容体阻害剤：1薬剤)

* 近年のRA診断における検査の進め方について

- ①、外来受診時に、感染症の除外検査・RA類似疾患との鑑別検査を目的とする関節症状を観察する等のスクリーニングを実施。
- ②、RA診断マーカー (RF、ACPA)・RA炎症評価マーカー (CRP、ESR)の測定をして確定診断に続ける。

* RA関連検査項目とRAに伴う合併症との関わり

- ①、マトリックスメタロプロテイナーゼ-3 (MMP-3)・血清アミロイドA (SAA)・Krebs von den Lungen-6 (KL-6)の測定によりRAの疾患活動性・予後判定が可能に。
例：KL-6値の変動はRAに伴う合併症の間質性肺炎の病態変化と密接な関係を示す。
・相対比較により外国人より日本人は薬剤性肺障害を起こしやすい
・自己免疫性疾患においては肺障害の管理が予後において重要
- ②、RA診断マーカーのRF・ACPAとMMP-3との同時測定で感度・特異度が上がりRA診断の効率化が可能に。

* RFの標準化の動向

RFのカットオフ値を15IU/mlに統一後も、いまだ値の収束に苦慮し日臨技・医師会サーベイ等で注視継続中とのことである。

(文責：大島まり子)

テーマ 腸管系感染症について「コロニーの観察と確認培地による菌名同定」

主催 微生物検査・公衆衛生検査研究班合同

実施日時：平成28年 5月28日 13時00分～16時00分

会 場：株式会社 ビー・エム・エル 総合研究所 点数：専門教科－20点

講 師：古畑 健司（株式会社 ビー・エム・エル総合研究所）

参加人数：会員29名

出席した研究班班員：

微生物：渡辺典之 永野栄子 金田光稔 酒井利育 砂押克彦 牧俊一 小西光政
森圭介 毛利光希

公衆衛生：富井貴之 菊池貴司 立塚梓 鈴木勤

研修内容・感想など

今回の菌株供覧は、(株)ビー・エム・エル総合研究所での開催となった。従来より、菌株供覧は、埼玉県衛生研究所にて実施してきたが、今年度は(株)ビー・エム・エルでの開催となった。参加人数は16名(受講者)であった。当初より、実技を最優先とのことで、個々に細かい対応ができるギリギリの人数を設定したためである。参加者の細菌検査経験年数は様々であったが、おおよそ、2～3年ぐらいの参加者が中心となった。まず、5～6名ずつのグループ分けをし、あらかじめ準備された、菌株および菌株の同定を目的にした用手法培地を観察した。各性状を見ながら、質疑応答形式で進めていった。受講者一人一人がそれぞれ判定した同定結果を、最後に講師の古畑氏を中心に答え合わせ、および、特徴の説明をしていただき、供覧を締めくくった。日常検査ではあまり遭遇しない、感染症起因菌、性状が稀な腸内細菌、薬剤耐性菌、寄生虫の標本も観察することができた。参加者の中には、初めて見る菌種も多かったのではないかと推測する。

滅多には遭遇しない菌種であったが、遭遇した時に、「そういえばあの時、観たな・・・」と、今回の経験、資料等を役立ててもらいたい。

参加者の方々に、「非常に有意義な実技研修会であった」と思っていただけのように、今後も継続開催していきたい。(文責：金田光稔)

テーマ 実技に関する事前講習会 初級者・中級者

主催 輸血検査研究班

実施日時：平成28年6月15日 19時00分～21時00分

会場：大宮ソニックシティ 906号室 点数：専門教科－20点

講演1：血液型検査・不規則抗体検査の手技

講師：佐藤 祥子（埼玉県済生会栗橋病院）

講演2：カラム凝集法の特徴、抗体解離（酸解離）の特徴

講師：長谷川 卓也（上尾中央医科グループ 上尾中央総合病院）

参加人数：会員90名 賛助会員2名

出席した研究班班員：山田攻 渡邊一義 佐藤祥子 長谷川卓也 久保居由紀子 野呂光恵
神戸考裕

研修内容・感想など

実技研修会に関する事前講習会という内容で、血液型検査・不規則抗体検査手技について（初級編）、カラム凝集法の特徴、抗体解離の手技と特徴（中級編）の講演が行われた。

血液型（ABO・Rh）検査と不規則抗体検査手技は佐藤班員に講演していただいた。輸血検査は基本操作を習得することが大切であり、輸血療法の実施に関する指針、改訂した赤血球型検査ガイドライン、輸血のための検査マニュアル等に沿って操作の説明、輸血検査で遭遇する異常反応への対応、緊急時の血液の選択まで丁寧に説明されていた。

カラム凝集法の特徴、抗体解離の手技と特徴（中級編）は長谷川班員に講演していただいた。講演ではカラム凝集法の原理、基本操作の説明があり、異常反応を示しているカラムの写真を使用した症例では、カラムを観察するポイントを知ることができ興味深い内容であった。抗体解離の手技と特徴については直接抗グロブリン試験の解釈、解離試験が必要な意味、操作の解説などを中心に講演していただいた。輸血検査の手技や、操作の意味を理解して実技研修会に望んでいただければ、より良い実技研修会になると思われる。

(文責：神戸考裕)

テーマ 臨床化学検査研修会 No.1 微量元素とその測定意義 ～Zn、Cu、Liを中心に～

主催 臨床化学検査研究班研修会

実施日時：平成28年6月17日 19時00分～20時30分

会場：大宮ソニックシティ 604号室 点数：基礎教科－20点

講師：井上 哲（ニプロ株式会社 総合研究所 第三研究開発部）

参加人数：会員43名 賛助会員2名

出席した研究班班員：巖崎達矢 柴田真明 安田達明 三木隆治 大谷真澄 藤本丈志 大出淳
栗原将希

研修内容・感想など

今回は井上氏に臨床化学検査における微量元素項目として、汎用自動分析装置で測定可能なZn、Cu、Liを中心に講演していただいた。微量元素は、生体内で重要かつ様々な働きを担っており、摂取不良や排泄促進により貧血や発育障害など人体に様々な影響を及ぼす。その中でもZnは、臨床検査技師の業務として新たに加わった味覚検査や、検体採取が可能となった褥瘡部位の治療と密接に関係しており、NSTなどでのZn管理が褥瘡予防や治療促進に効果的であることが分かった。また、ZnとCuは生体内で平衡関係にあるため、どちらか一方を過剰投与することなく、投与バランスが良ければ疾患予防や治療促進につながるという説明があった。Liは躁病や躁鬱病の患者様に対して投与される第一選択薬剤であり、有効血中濃度の幅が狭く中毒域に近いと、定期的な測定と管理が必要な項目である。医薬品医療機器総合機構（PMDA）からの医薬品適正使用のお願いでは、2012年9月時点で炭酸リチウム投与患者の52%は1度も血中Li測定が実施されていない可能性があり、98例で重篤なりチウム中毒症があったことが分かり、測定の意義と重要性を痛感した。本研修会ではその他に各項目の保険収載や測定上の留意点にも触れられており、今後の日常検査に大いに役立つものと思われる。

(文責：安田達明)



埼臨技だより445号掲載記事に関するお詫びと訂正

埼臨技だより445号に血清検査研究班の研修会報告書が掲載されておりますが、内容に一部誤りがありました。

訂正箇所 4 ページ 本文 9～10行目 2箇所

【誤】HBs抗体を測定する必要がある。

【正】HBc抗体を測定する必要がある。

【誤】HBs抗体は陰性のままである。

【正】HBc抗体は陰性のままである。

会員の皆さまならびに関係各位にご迷惑をお掛けしましたこととお詫びするとともに、ここに訂正させていただきます。



埼臨技事務所夏季休暇について

平成28年8月15日（月）～19日（金）

上記期間、事務所はお休みになります。

求人案内

○社会福祉法人恩賜財団母子愛育会
総合母子保健センター 愛育病院
採用条件：非常勤職員（常勤採用予定あり）
連絡先：033-64533-7300
管理課 大塚

○社会福祉法人恩賜財団母子愛育会
総合母子保健センター 愛育クリニック
採用条件：非常勤職員 2名
連絡先：03-3473-8310 管理課 大塚

○がん・感染症センター都立駒込病院耳鼻咽喉科
採用条件：非常勤職員
連絡先：03-3823-2101
耳鼻咽喉科部長 杉本太郎

○深谷赤十字病院
採用条件：臨時職員（パート）
連絡先：048-571-1511
PHS 6216 野瀬和彦

○医療法人社団協友会 メディカルトピア草加病院
採用条件：正職員
連絡先：048-928-3117
総務人事課 山野

○東京医科歯科大学耳鼻咽喉科
採用条件：特定有期雇用職員
連絡先：03-5803-5308 堤 剛

○社会医療法人 さいたま市民医療センター
採用条件：正職員
連絡先：048-626-0011 内線7707
総務課 飯田

○医療法人社団和風会 所沢中央病院
採用条件：正職員 臨時職員（パート）
連絡先：事務長 服部 貢

○医療法人 大宮シティクリニック
採用条件：正職員 臨時職員
連絡先：048-645-1256
本部長 星野

給与、社会保険等、詳細につきましては掲載してある連絡先にてご確認をお願いいたします。

**平成28年度
公益社団法人埼玉県臨床検査技師会
第3回 理事会議事録**

日 時：平成28年6月3日（金）
午後8時10分より
場 所：大宮ソニックシティ
さいたま市大宮区桜木町1-7-5
議 題：代表理事選定の件
出 席：(理事)阿部 石井 伊藤 猪浦 岡田
神嶋 神山 小島 小山 島村
津田 鳥山 奈良 長岡 長澤
濱田 濱本 藤井 松岡 武関
矢作 山口
(監事)遠藤 細谷
理事22名（総理事数22名）及び監事2名（総監事数2名）出席のもとに、理事会を開催し、下記議案につき可決確定の上、午後8時20分散会した。

代表理事選定の件

理事 津田聡一郎は選ばれて議長となり、今般、代表理事 津田聡一郎が理事の任期満了により代表理事の資格を喪失し、退任することになるので、改めて当法人の代表理事を選定したい旨を述べ、慎重協議した結果、全員一致をもって、次のとおり選定した。なお、被選定者は、席上その就任を承諾した。
代表理事 津田 聡一郎

**平成28年度
公益社団法人埼玉県臨床検査技師会
第4回 理事会議事録**

日 時：平成28年6月9日（木）19時00分より
場 所：埼臨技事務所 さいたま市浦和区領家7-14-7
議 題：Ⅰ. 行動報告 Ⅱ. 報告事項
Ⅲ. 承認事項 Ⅳ. 議題
出 席：(理事)津田 神山 島村 岡田 矢作
小山 奈良 長岡 猪浦 石井
松岡 小島 濱本 藤井 長澤
神嶋 伊藤 濱田 山口 武関
鳥山 阿部
(監事)遠藤 細谷
欠 席：(理事)なし
(監事)なし

本日の理事会の出席者は24名であった。理事の出席者は22名で、現在数22名の過半数に達しており、定款第33条第1項の決議を行うに必要な要件を満たしていることを確認した。
議長は、定款第32条第1項より、津田聡一郎会長が務めることとなった。

Ⅰ. 行動報告（平成28年5月12日～平成28年6月8日）
5月12日（木）平成28年度公益社団法人第2回理

事会：
津田、神山、島村、矢作、小山、奈良、猪浦、長岡、伊藤、松岡、小島、濱本、藤井、長澤、神嶋、山口、鳥山、武関、野瀬、遠藤

- 5月14日（土）第1回理事・研究班合同会議：
津田、島村、岡田、小山、奈良、猪浦、長岡、小島、濱本、長澤、神嶋、山口、鳥山、武関
- 5月20日（金）第45回埼玉県医学検査学会第9回実行委員会：猪浦、長岡、武関
- 5月23日（月）全国「検査と健康展」会場打ち合わせ：津田、濱本、長澤
- 5月23日（月）第1回表彰審査選考委員会：
津田、神山、島村、岡田、矢作
- 5月24日（火）人間総合科学大学講義：神山
- 5月31日（火）第1回事務局会議：
神山、矢作、小山
- 6月3日（金）平成28年度定時会員総会：
津田、神山、島村、岡田、矢作、小山、奈良、猪浦、長岡、伊藤、松岡、小島、濱本、藤井、長澤、神嶋、山口、鳥山、武関、野瀬、遠藤、細谷
- 6月3日（金）平成28年度第3回理事会：
津田、神山、島村、岡田、矢作、小山、奈良、猪浦、長岡、伊藤、松岡、小島、濱本、藤井、長澤、神嶋、山口、鳥山、武関、阿部、石井、濱田、遠藤、細谷

Ⅱ. 報告事項

1 事務局

- 5月23日、第1回表彰審査選考委員会を開催し、平成28年度埼玉県公衆衛生事業功労者表彰推薦者6名を選出し県へ回答した。
- 5月24日、人間総合科学大学にて神山副会長が講義を行った。
- 5月31日、第1回事務局会議を開催した。
- 6月2日、平成29年度春の叙勲推薦者を県に回答した。
- 平成28年度定時会員総会における南部地区の資格審査員が、都合により今村尚貴氏から柿沼智史氏へ変更となった。
- 第16回わらび健康まつりの実行委員として、濱本理事を推薦し蕨市に回答した。
- リレー・フォー・ライフ・ジャパン2016さいたまへの後援を回答した。

2 総務部

- 「埼臨技だより」第445号、6月15日発行予定

3 事業部

- 今年度の全国「検査と健康展」の開催日および会場が決定した。

4 学術部

- 5月14日、第1回理事・研究班合同会議を開催した。
- 一般検査研究班尿沈渣鏡見実習について

5 精度保証部

- 特になし。

6 会計部

- 1) 平成28年度正会員費53名分265,000円、入会金35名分35,000円、合計300,000円の入金があった。
- 2) 生涯教育推進研修会助成金50,000円×3研修会、合計150,000円の入金があった。
- 3) 株式会社サンメディアより複写使用許諾費(16件分) 2,592円の入金があった。
- 4) 株式会社メテオより複写使用許諾費5,594円の入金があった。
- 5) 極東製薬工業より疑似便使用料19,294円の入金があった。
- 7 精度管理委員会
 - 1) 特になし。
- 8 一都八県会長会議
 - 1) 特になし。
- 9 日臨技関甲信支部
 - 1) 特になし。
- 10 日臨技
 - 1) 平成28年度日臨技定時総会に津田会長、神山副会長、岡田副会長の3名が出席することとなった。
- 11 第45回埼玉県医学検査学会
 - 1) 5月20日、第9回実行委員会を開催した。
- 12 第54回日臨技関甲信・首都圏支部医学検査学会準備委員会
 - 1) 特になし。

III. 承認事項

- 1 事務局
 - 1) 会員動向(平成28年度分)

平成28年 6月 1日現在

 会員数 2,654名
 (新入会員123名[平成27年度会員数2,587名])
 賛助会員 57社[平成27年度 79社]
 承認された。
 - 2) 平成28・29年度埼臨技各種委員会名簿について

一部修正のうえ承認された。

- 2 総務部
 - 1) 特になし。
- 3 事業部
 - 1) 特になし。
- 4 学術部
 - 1) 特になし。
- 5 精度保証部
 - 1) 特になし。
- 6 会計部
 - 1) 特になし。
- 7 精度管理委員会
 - 1) 特になし。

IV. 議題

- 1 業務執行理事(副会長並びに常務理事)の選定について

定款第22条2項の定めにより、副会長並びに常務理事の候補者を以下の通り提案する。

副会長	神山	清志
	島村	益広
	岡田	茂治

なお、副会長の序列は記載順とする。

- 常務理事
- | | | |
|--------|----|--------------|
| 事務局長 | 矢作 | 強志 |
| 事務局次長 | 小山 | 博史 |
| 総務部長 | 奈良 | 豊 |
| 事業部長 | 濱本 | 隆明 |
| 会計部長 | 松岡 | 優 |
| 学術部長 | 山口 | 純也 |
| 精度保証部長 | 山口 | 純也 (学術部長と兼務) |

津田会長より標記の議案について、発言があった。これを受け理事会審議の結果、出席理事全会一致で承認した。なお、被選定者は各自が議場にて就任を承諾した。

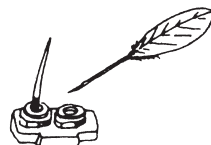
以上で本日の議事を終了し、議長は協力を謝して閉会とした。

あ と が き

皆さんは魚釣りにはいきますか。

私は、船で海に出て、きれいな景色を眺めながら行う船釣りが好きです。魚が餌を食ったときのドキドキ感、そして魚が釣れたら緊張から解放され満面の笑顔になり、ストレス解消にもなります。ただ、釣れる日も釣れない日もあります。それはすべてその日の運です。運は天に任せているので、いわば博打みたいかもしれませんね。しかし、ご存知のように魚には、エイコサペンタエン酸(EPA)やドコサヘキサエン酸(DHA)など、良い成分が豊富で、釣魚を食することは健康と美に寄与することができるので、大変すばらしいことだと思います。

さて、埼臨技有志釣りクラブをご存じでしょうか。同クラブは共通の趣味を通して会員相互の交流を目的とした会です。不定期ですが、釣り大会を開催しており、前回は昨年12月に平塚沖で行いました。参加に必要なのは釣った魚を持って帰るクーラーボックスだけで、釣竿やリールがなくても大丈夫。すなわち、ゆるーい友達作りの会ですので初心者の方もお気軽にご参加下さい。



(奈良 記)